

あーばんとーく

平成 10 年 9 月号 (通巻 第 13 号)

発行: (財)神戸市都市整備公社

こうべまちづくりセンター

〒650-0022 神戸市中央区元町通 4 丁目 2-14

電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546

ついに月刊化!

あーばんとーく リニューアル

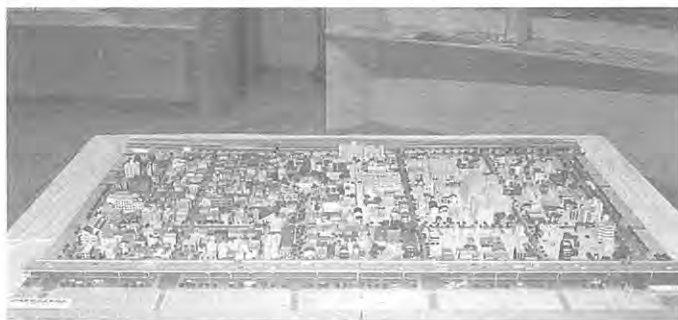
月刊あーばんとーくの発行について

こうべまちづくりセンターの広報紙「あーばんとーく」については、平成 5 年以來季刊で発行してまいりましたが、今年 9 月から装いも新たに月刊紙として発行させていただくことになりました。まちづくりに係わるホットな情報を皆様にお伝えする媒体として充実させていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

まちづくりセンターでは、震災以後 3 年余りの「復興のすまい・まちづくり」の大きな成果を広くお知らせするため、「復興すまい・まちづくり展」を平成 10 年 7 月 17 日 (金) から 8 月 9 日 (日) まで開催しました。

展示品は、完成した再建マンションや共同住宅をご紹介するパネルや写真のほか野田北部地区 (長田区) の街並み模型等、全部で約 30 点でした。

展示会の様子は、テレビ、ラジオ、新聞などでも取り上げられ、期間中には 7000 人を超す方々にお出でをいただきました。ご来場いただいた皆様方には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。



野田北部地区の復興状況を模型で

まちづくり会館 1 階のオープンギャラリーでは、常時、神戸市や関係団体のまちづくりの取り組みをご紹介する展示を行っています。元町へ来られた際は、ぜひ、まちづくり会館にもお立ち寄りください。

まちづくりシンポジウムのお知らせ

21 世紀に向けたた暮らしやすく働きやすいまち 「コンパクトシティ」

— 持続可能な神戸のまちづくりのために —

日時: 平成 10 年 10 月 15 日 (木) 13:30~17:00
場所: 神戸国際会議場 401・402 号
参加費: 無料
定員: 200 名 (応募多数の場合は、先着順)

申し込みは
FAX: 078-322-6009 又は TEL: 078-322-5029 で
神戸市震災復興本部総括局
復興推進部総合計画課まで
名前・会社名・学校名等・連絡先を忘れずに

内容
基調講演 「21 世紀型新しい都市づくりの理念と方法」
都市プランナー ピーター・カルソープ
パネリスト 「コンパクトシティの実現に向けて」
コーディネーター 大阪大学名誉教授 紙野 桂人
パネリスト 神戸大学教授 室崎 益輝
コミュニティセンター神戸 代表 中村 順子
ワンサチ・アムカ Inc 代表取締役社長 川村 健一
日本開発銀行設備投資研究所 主任研究員 小門 裕幸
神戸市長 笹山 幸俊

こうべ市民安全まちづくり大学 上級コースの開催

こうべ市民安全まちづくり大学では、修了生のうち希望者を「市民安全推進員」として登録し、各地域において安全なまちづくりのためにご活躍いただいています。これら推進員の皆さんに、地域での活動を進める上で必要な、より高度かつ実践的な知識を身につけていただくため、今年度から推進員を対象にした上級コースを開講することになりました。今年は、第1期市民安全推進員である50名の皆さんを対象にして、5月から7月にかけて、3回連続講座として実施しました。

今年のテーマは

今年の上級コースのテーマは、「コミュニティ安全マップ、コミュニティ安全計画の作成の手引書」の検討です。今後、各地域において安全なまちづくりを進めるには、住民の皆さんが自分たち自身でまちを点検してマップをつくりそれによって安全上の課題を把握し、必要な備えを考えて計画をつくっていくことが不可欠と言えます。この「マップから計画への流れ」を、一般の住民の皆さんに分かりやすく説明するために必要なのが、この手引書です。

安全計画に必要な視点を

安全マップづくりや安全計画づくりは、推進員の皆さんにとって、いずれも昨年度の本講座の中で実際に体験された内容なので、この上級コースの中では、その経験を思い起こしながら、地域の課題や特性を踏

まえて活発に意見交換していただきました。また講師として、大阪大学人間科学部の渥美公秀助教授や、(財)日本システム開発研究所の佐藤隆雄理事心得をお招きし、コミュニティ安全計画を検討する上で必要な視点や、地域と事業者の連携方策などについてお話いただきました。

手引きを参考に地域で計画を

推進員の皆さんに検討していただいたこれらの手引書は、今年度中に完成させ、防災福祉コミュニティ等を通じて地域の住民の皆さんにお配りする予定です。安全なまちづくりを進めるうえで、ぜひ参考にいただければと思います。

(神戸市市民局市民安全推進室安全企画課)



産業技術短期大学助教授の児玉善郎先生から、「手引き書は、対象になる人のレベルに応じて、イラストを豊富に用いたり、他地区の実例紹介を中心にするなどの工夫を考えてはどうか」との講評をいただきました。

「マップづくりの手引き」の回では、受講生から、準備に必要なものや、人を集めるためのPR方法など、さまざまな視点から意見をいただきました。

アメリカの郊外住宅事情①プロローグ

神戸市都市計画局アーバンデザイン室 中山久憲

アメリカの都市のイメージと言えば、摩天楼のような超高層の建物が立ち並ぶシルエットを思い浮かべる。しかし、都市を構成しているのは、実は、ほんの少しの超高層の建物のある都心と、そこから遥か遠くの外苑までつながる大半を占める郊外住宅地である。

アメリカを訪れたことがある人は経験があると思うが、シアトルやロスアンゼルス、ボストンなどの代表的な都市の上空からの飛行機の窓の下には、整然とどこまでも続く広い道路と、緑に囲まれた広い庭とその割に小さく見える住宅が、地平線の彼方まで続くかのように広がっているのに驚いた人は多いと思う。飛行機の窓から見えた景色は、都市の地図を広げてみてなるほどと思うほど、郊外住宅地が広いのである。

例えば、ロスアンゼルス都市圏には1400万人が住むといわれるが、都市圏はなんと関東平野に匹敵するほどの大きさがある。

実際にかいまみた都市郊外の住宅地の現況は、区画道路は幅員が広く、道路からセットバックした住宅と手入れの行き届いた前庭が続いている。隣との境界や道路との境界を意識させないほど宅地規模が大きい。これが典型的な郊外住宅地の様相である。

郊外の平均的な一戸当りの画地面積は200坪(660㎡)はあり、裏庭にはプールがあったり、どこからか可愛いリスの訪問が似合う芝生庭園や、時には馬を飼っている庭の風景もあった。郊外と言っても、都心から車で約30分から1時間程度であり、ニューヨークもシアトルも同じ条件である。価格は土地と住宅付で3000万円台程度で買えると聞かされた。その環境と価格に、われわれ日本人には驚嘆あるいは呆れる以外の言葉が出てこない。

東京でそれだけの条件で価格がいくらになるかを考えると、いくら地価が下がったとはいえ1億円いや2億円は下らないだろうし、仮に同じ価格の条件の宅地を探せば、新幹線通勤を前提にしても存在しないだろう。神戸でも代表的な西神住宅団地では、1区画200㎡の宅地だけでも3000万円は超えるだろう。200坪の土地は探してもない。

アメリカの郊外の住宅地が、我々日本の一般サラリーマンにとって羨ましいの一語であるに関わらず、一方で都心のマンション住まいも選択されている。なぜかと聞くと、郊外での生活の維持にかかるコストや人間関係が結構大変だという声がある。それ以上に、生活の便利さがあること、郊外から通勤は朝のハイウェイの渋滞で2時間もかかるとの理由もある。が、驚かされたのは、郊外の住宅を買う代わりに、ヨットを買って余暇をエンジョイしたり、週末を過ごす別荘を買うという人が多くいることであった。まさに生活の質を自分の考えに沿って自由に選択している。

アメリカ訪問で感じたことは、こうした生活の仕方がアメリカ人の中にきっちりできあがっていて、自分の考え方を尊重しつつ、社会のルールをきっちり遵守しながら、日常生活が個人と社会の両面で秩序よくできあがっているということである。



アメリカは個人主義の国で、日本は集団主義の国とよく言われる。またアメリカは自由主義の国だとも言われる。しかしながら、アメリカの郊外の住宅地が美しく、整然としている理由を知れば、本当にアメリカは個人主義で自由主義の国かという素朴な疑問を持たざるを得ない。さらに、アメリカと日本の住宅事情を比較すれば、日本こそが勝手気ままな自由放任の個人主義の国で、そのことがアメリカに比べ決して美しいといえない住環境しか持ち得ないことに気付く。

そこでこのシリーズで、なぜアメリカの郊外住宅が安い価格で取得でき、美しい住環境が維持されているかを、各回で学びながら、日本のまちづくりの参考にしたい。

家宅セン ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室
 まちづくり会館 4階・Tel. 361-4523
 開館時間：午前10時～午後6時
 休館日：毎水曜日・年末年始

8月の新着図書案内 多くの方のご利用をお待ちしています。

	書名	著者・編集者	発行所
1	コミュニティの再生とNPO サンフランシスコの住宅・福祉・まちづくり	川合 正兼	学芸出版社
2	インターネットの疑問 Q&A	(株)エルザ	オーム社
3	建築トラブル法律百科	安藤 一郎	KK.建築知識
4	マンション紛争の上手な対処法	日本マンション学会 法律実務研究会	民事法研究会
5	借地の法律相談 第3版	鈴木 禄也 外	有斐閣
6	震災復興の歩み ー産業と都市の再生ー	長岡 豊	知硯書院
7	地震前、なぜ動物は騒ぐのか 電磁気地震学の誕生	池谷 元何	日本放送出版協会
8	災害ボランティア読本	伊永 勉	小学館

※当センターにふさわしい図書・資料をご紹介ください
 担当:調査係 橋本(361-4523)まで

こうべまちづくり会館 地階ギャラリー 9月の予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
9月3日(木)～8日(火)	第10回増井教室油絵グループ展	増井 昭夫
9月10日(木)～15日(火)	葦の会展	荻野 貞雄
9月17日(木)～22日(火)	'98 萌写友展	ぐるっぺ萌
9月24日(木)～29日(火)	Wa合同展	朝日カルチャー神戸

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの予定

9月の予定	下水道パネル展	神戸市建設局下水道河川部
-------	---------	--------------

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
 (ただし、年末年始を除く)

- 祝日・土・日曜は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館4F)
 時間は、午前10時～午後5時



〒650-0022
 神戸市中央区元町通4丁目2-14
 電話 078-361-4523
 FAX 078-361-4546